

# 第107回二科展京都巡回展

2023年11月21日火曜日～26日日曜日 京都市京セラ美術館

## ●絵画部、彫刻部

今回の巡回京都展は、会期を従来実施していた時期に申請することが出来、会期中の天候にも恵まれ、連日来場者も多く、盛況のうちに終了することが出来ました。

前回は、1月の開催で大寒波の影響もあり、厳しい状況でしたが、今回は来場者の数字が戻り、会期一週間の短い期間ながら、5,368人と前回をかなり上回る数字に安堵しました。4部門の展示作品総数は268点で、絵画117点、彫刻13点、デザイン59点、写真79点の作品が並び、絵画部は全国巡回の会員、受賞者、地元の会員、会友、一般の作品117点（全国巡回52点、地元65点）、彫刻部は13点（全国巡回11点、地元2点）の作品が展示されました。京滋関係の受賞者は、会員賞：甲津久生、会友賞：小南治次、坂本啓子、山本知子、新人奨励賞：韋藝、会員推挙：水元美穂子、会友推挙：加治木成美、林里美の各氏でした。それぞれ今後が期待され、京滋支部としてより充実した巡回展になったかと思えます。

会場は前回より少し狭かったため、全国巡回の作品をさらに減らす工夫をして、何とかスペース内に展示することが出来ました。全国巡回の大作展示や、2点入選展示の美術館の高さ規制など問題もありますが、効果的な展示方法を工夫していきたいと思えます。今後の課題はありますが、京都市美術館の独特な空間で、彫刻との融合展示、また写真、デザイン部門との4部門展示は、落ち着いた良い展示空間となり、来場者も二科の自由な作品の特徴を楽しんで下さったようです。

## ●デザイン部

今回は、全国巡回作品55点と京・滋関係の4点計59点を展示。自由テーマと特別課題「日本ASEAN友好協力50周年」をテーマにしたB1ポスターを中心にB2サイズのイラストやフリースタイルの小型作品でそれぞれに特色を生かした力作を展示した。

京・滋関係で一般入選者が一人でしたが今後、複数入選者が出るのを期待したいが、京都の下口会員が会員賞で花を添えてくれた。

## ●写真部

2023年5月8日のコロナ第5種に移行後の京都巡回展は2023年11月21日（火）から26日（日）まで開催されました。この期間も最近の異常気象による好天が続き前回は上回る入場者がありました。写真部では京都府副知事をはじめ行政の方々、京都HD社長を含む経済関係の方々にも常日頃の京滋支部写真部の活躍をご披露いたしました。

京都支部では前回に続き延3回の二科賞（川村雅範会友推薦作「一撃」）、滋賀支部では京都新聞賞（初入選・阪江範康支部員作「五月五日」）をそれぞれ獲得しました。作品展示は片岡代表理事をはじめ、二科賞を含む3点、スポンサー賞16点、奨励賞3点、会員作品12点、会友作品10点他合計79点（単66点、組13点）の展示となりました。尚、割愛させていただいたスポンサー賞多数ありましたことを御報告致します。

会場は何時もの通りデザイン部と写真部で208号室を使用しました。第108回二科展の予定も決まっています。写真部では次回からヤング部門が加わります。若い写真に興味のお持ちの方にお誘いを致し、前回は上回る一般応募の増強に努めてまいります。

